

よみがえる仏教 インド仏教復興運動の今

6月7日（日）15:00～ 護国寺本堂

佐々井秀嶺師最終講演会

生涯を不可触民解放に捧げられたアンベードカル博士が50万人とともに行った集団改宗によって始まったインドにおける仏教復興運動は、博士の死後・佐々井秀嶺師によって引き継がれ、一度は仏教が消え去ったインドにおいて今や1億人とも言われる仏教徒が誕生するまでになった。

人口10億人を超え驚異的な経済発展を遂げ、国際的に存在感を増しているインド。世界的な金融不安による貧困や紛争の絶えない現代において、慈悲をもって争いを無くそうとする仏教徒の増加は、世界的にも大きな意義がある。

渡印以来40年にわたりインドの仏教復興運動の中心的指導者として、インドの仏教徒を導いてこられた佐々井師を迎え、インド仏教復興運動の意義と師の活動について学ぶことを通して、現代社会における仏教の意義について再考する機会としたい。

ゲストには佐々井師の日本への紹介に尽力されてきたフォトジャーナリストの山本宗補氏による現地報告と佐々井師の弟子である高山龍智師に「歴史のメッセージ」についてお話しいただき、日本からは想像しづらいインド仏教の現状にも肉薄する。

会場へのアクセス

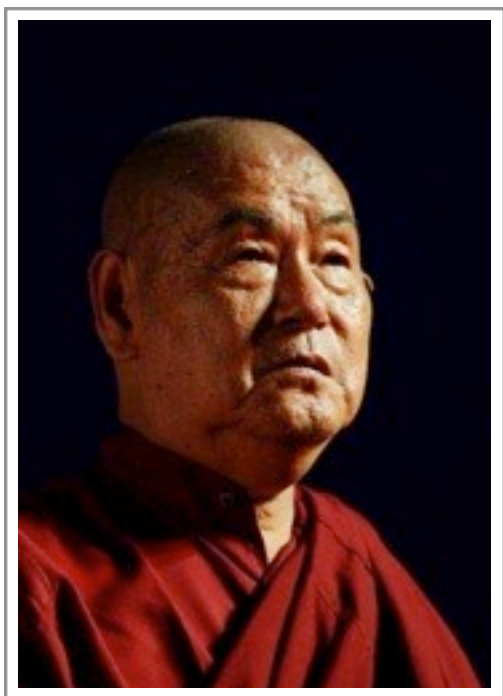


東京メトロ有楽町線護国寺駅
下車すぐ
都営バス - 都02乙（池袋駅東口～一ツ橋）または上58（早稲田～上野広小路）で「護国寺正門」下車

講演会概要

- 【日時】 2009年6月7日（日）15:00～
- 【場所】 護国寺 本堂（東京都文京区大塚5-40-1）
- 【対象】 一般公開（申込み不要）
- 【料金】 無料（自由喜捨）
- 【主催】 彼岸寺 (<http://www.higan.net>)
- 【特別協力】 大本山 護国寺
- 【協賛】 光文社

佐々井秀嶺師について



佐々井秀嶺師 プロフィール

1935年に岡山県新見市に生まれられた佐々井秀嶺師は、青年時代自らの生き方に悩み日本全国を放浪した末、高尾山薬王院にて得度されました。

タイへの留学を経て、インドに渡られてからは王舎城の山頂で感得した大乘仏教の大思想家・龍樹に導かれインド中部の町・ナグプールへ。

その後、不可触民の解放に生涯を捧げたB・R・アンベードカル博士の跡を継ぎ、貧困と差別に苦しむインド仏教徒の支援に取り組みられました。

92年からはヒンズー教徒によって管理されているお釈迦様が悟りを開かれた仏教の聖地ブッダガヤにある大菩提寺の奪還闘争を開始され、数万人の仏教徒とともに26日間、7000キロにも渡るデモ行進を行い全インドから大きな注目を集められました。

現在は真言密教の伝説の遺跡「南天の鉄塔」を求め、マンセル遺跡の発掘活動にあたられており、今回44年ぶりに日本に一時帰国を果たされました。（写真表裏とも：山本宗補氏）

関連書籍

- 1935年 岡山県新見市生まれ。
- 1960年 25歳のとき高尾山薬王院で出家。
- 1965年 タイに留学。
- 1966年 インドに渡る。ナグプールでアンベードカル博士のはじめた仏教復興と不可触民の解放運動に従事。
- 1988年 インド国籍を取得。
- 1992年 釈迦成道の地であるブッダガヤの大菩提寺の奪還闘争を開始。
- 1998年 大乘仏教の聖地・南天の鉄塔を求めマンセル遺跡、シルプル遺跡の発掘を開始。
- 2003年 仏教徒代表としてインド政府少数者委員会に就任。



山際素男
『破天 インド仏教徒の頂点に立つ日本人』
(光文社新書)

小林三旅
『男一代菩薩道』（アスペクト）

ゲスト紹介

山本宗補氏

1953年、長野県生まれ。フォトジャーナリスト。

サンディエゴ・シティカレッジで写真の基礎を学び、フィリピンの先住民族アエタ族、ビルマを取材する。アウンサンスーチー氏にも取材を成功する。

2004年から佐々井秀嶺師の取材を続け、今回の来日では密着取材を敢行。日本国内では「古い」と「戦争の記憶」のテーマに取材を続ける。日本ビジュアル・ジャーナリスト協会(JVJA) 会員。

主著に、「また、あした 日本列島古いの風景」（アートン、2006年）、「フィリピン 最底辺を生きる」（岩波書店、2003年）、「ビルマの大きいなる幻影」（1996年、社会評論社）など他多数。

高山龍智師

1960年、東京都生まれ。インド仏教僧。

日本国内では浄土真宗東本願寺派の僧としての顔も持つ。得度以来二十七年、日印往復足掛け十八年、佐々井秀嶺師に師事して約七年。親鸞とアンベードカルの相即を確信する。

電腦寺 (<http://homepage3.nifty.com/~dennoji/>) 和尚として今回の来日には準備段階から尽力し、岡山県長泉寺宮本光研師の指示のもと、佐々井師の44年ぶりの来日を実現させる。師を最もよく知る弟子の1人として佐々井師の縦横無尽な活躍ぶりを紹介し、本講演実現にも大いに協力する。

ヒンディー語を自由自在に操り、インド映画鑑賞を趣味とする。